

# 舌がんで二度の手術後、 五葉松の粒で高齢の母の免疫力が 向上し五年間再発なし

**口内炎と思ったが  
精密検査で舌がんと  
わかり手術を受けた**

「舌がんと診断された母が二  
度めの手術を受けたのは、二

〇〇八年のことです。それか  
ら五年以上たちますが、母は  
五葉松の粒を飲みつづけて、  
毎日元気に過ごしています」  
このように話すのは、広島  
市で旅館業を営む高島安彦さ  
ん(仮名・六十二歳)。

安彦さんの母親であ  
るサキさん(仮名・  
八十五歳)が飲んで  
いる五葉松の粒につ  
いて、サキさんに代  
わって安彦さんにお  
話をうかがいました。  
「母の舌に異常が現  
れたのは、二〇〇七  
年のことです。舌の  
左側にポツツとした  
赤いできものが現れ  
たんです。母は「口  
内炎ができたみたい」

と聞いていました」

サキさんの舌に現れたでき  
ものは、その後、しだいに化  
膿(うみ)しはじめ、症状がなかなか  
治まらなかつたそうです。

「口内炎にしては治りが遅い  
ので、かかりつけの内科で病  
理検査(組織や細胞を採取して  
病気を調べる検査)を母に受  
けさせたのですが、異常は見  
つかりませんでした。

その後、念のために歯  
科医院でも診てもらっ  
たところ、舌がんの疑  
いが大きいといわれ、  
総合病院での受診をす  
すめられたのです」

総合病院の口腔科で  
精密検査を受けたサキ  
さんは、正式に舌がん  
であることがわかりま

した。病期はI期とII期の間  
くらいといわれたそうです。  
「二〇〇八年二月に、母はが  
んの病巣を切除する手術を受  
けました。手術後はしばらく  
放射線治療を受けて、その後、  
無事に退院することができま  
した」

ところが、高島さん親子が  
ほっとしたのもつかの間のこと  
でした。一カ月後の二〇〇  
八年三月になると、サキさん  
は下あごからのどにかけて遠  
和感を訴えるようになったの  
です。

「母があらためて総合病院で  
精密検査を受けると、舌の近  
くにあるリンパ節にがんが転  
移していることがわかったの

五葉松の粒は、  
大きな松ぼっくりが  
特徴の五葉松(種子)の  
殻から作られている

たかしま  
高島サキさん(仮名)のカルテ

✳	発症	78歳	舌の左側に違和感を覚えて精密検査を受けると、I~II期の間の舌がんと判明し、手術を受ける
✳	再発	79歳	がんが舌の周辺のリンパ節に転移していることがわかり、再手術と放射線治療を受ける
☺	開始	79歳	2008年5月から、時間を決めずに4~6粒ずつ飲む
☺	改善	80歳	カゼを引きにくくなるなど、体力の向上を実感
☺	現在	85歳	がんの再発や転移はなく、旅館の仕事を手伝っている



です」

二〇〇八年四月半ばに再入院したサキさんは、リンパ節に転移したがんを切除する手術を受けました。

「当時、八十歳近い母が、二カ月ほどの間に二度も手術を受けたのです。母は痛みや苦しさを家族に話しませんでした。が、心身ともに相当つらかったと思います」

二度の手術後、サキさんは放射線治療を合計二五回受けたとのこと。そのさい、のどを軽くやけどしたサキさんは、食事がとりにくい時期があったそうです。

「舌がんの治療は抗がん剤よりも、患部に直接放射線を照射する治療が主流とのこと、母は抗がん剤治療を受けませんでした」

安彦さんをはじめ、家族全員が心配していたのは、サキさんのがんの再発や転移でした。サキさんの体力を維持するために役立つ情報を集め



五葉松の粒で体力を維持し、庭の草むしりに精を出す高島サキさん

ていた安彦さんに、五葉松の粒の存在を教えてくれたのは、安彦さんのいとこだったといえます。

「薬剤師をしているいとこは、『がんの再発や転移を防ぐには、できるだけ免疫力を高める必要がある。そのためには、五葉松の粒がいい』と、力強くいつてくれました」

### カゼを引きにくくなり 食欲の低下もなく 旅館業の手伝いも平気

五葉松の粒とは、五葉松の松笠に入っている種子の殻に含まれるリグニン配糖体と、松の実に含まれているピノレ

## 多くの研究機関で 確かめられた五葉松の働き

国内における五葉松の研究は、昭和大学医学部の坂上宏教授(当時。現在は明海大学歯学部教授)によって始められました。以後、五葉松が持つ高い機能性に注目が集まり、以下のような日本を代表する多くの機関で研究が行われています。

国立感染症研究所／国立保健医療科学院／東京医科歯科大学／昭和大学医学部／東京大学医学部／日本獣医生命科学大学／名古屋市立大学薬学部／大阪府立大学／山梨医科大学／九州大学農学部／広島大学工学部／福山大学／東亜大学／鹿児島大学／明海大学／(財)日本生物化学研究所

ことは明らかです」  
その後毎日、五葉松の粒を飲みつづけているサキさんに、がんの再発や転移はありません。それまでは三カ月に一度の割合で受けていた病院の定期検査も、現在は五カ月に一度でいいと、担当医からいわれているそうです。

ン酸がいつしよに入っている健康食品です。特に、殻に含まれているリグニン配糖体には、免疫力向上作用と抗がん作用があることが、大学の研究によって明らかになっています。

安彦さんから五葉松の粒の話聞いたサキさんは、二〇〇八年五月から、時間を決めずに一日計四〜六粒を飲みはじめました。

「五葉松の粒を母が飲むようになってまず気づいたのは、カゼを引きにくくなったことです。五葉松の粒を飲むことで、母の免疫力が強化された

「担当医から、再発や転移のおそれはほとんどないといわれた母は、五葉松の粒を一日一〜二粒に減らして飲んでいきます。がんが見つかったから六年たったいま、母は食欲が落ちることなく、日常生活に問題はまったくありません。母はひどい痛の持病がありますが、毎日一五分ぐらい歩いて、体力を維持しています。旅館の庭の草取りなどをして、私たちの仕事を手伝ってくれる母の後ろ姿を見ると、五葉松の粒を知ってほんとうによかったと思います」